

令和5年度
滋賀の縁創造実践センター
社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会
事業計画



ひたすらなるなかみ

社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会

1. 基本方針

- 本会は、制度、分野ごとの縦割りを超え、支え手と支え手がつながる滋賀の縁創造実践センターの取組みなどを踏まえ、平成 31 年 3 月に定款を改正し、だれもが「おめでとう」と誕生を祝福され、「ありがとう」と看取られる人間的共感にねざした共生社会の実現のため、ひたすらなるつながりの理念のもと不断の地域福祉実践を行うことを内外に発信してきた。
- そうした中、コロナ禍は、差別や偏見、経済的困窮および社会的孤立といった問題を顕在化させ、生活格差、つながりの格差、不寛容さといった課題をより深刻なものにしている。無縁社会という共に生きる社会とは対極にある方向へと進みつつあるのではないかと危機感を募らせるものである。
- 社会的孤立や困窮が深刻化している今だからこそ、生きづらさという問題を直視し、今、何を大切し、どう行動していくべきなのかを考えることが求められている。まさに、コロナ禍の中で、共に生きる社会のありようが改めて問われているのではないか。
- こうしたことを踏まえ、法人化 70 年を経た本会が今後の活動方針として描くビジョンは、「ひたすらなるつながり」の理念のもと、社会的に不利な立場にある方々への希望の縁を架ける実践の推進である。
- 本会は、福祉滋賀の一員として、共に生きる社会に向けての社会課題、地域課題、生活課題などに対し、前例にとらわれることなく、何が必要とされているかの観点から、今できること、これからできることを模索し、挑戦し、「縁の架け橋」となる実践に邁進していく。
- 令和 5 年度は本会第二次経営計画（令和元年度～令和 5 年度）の最終年度であることから、現計画において目標未達の項目について確実に取組むとともに、次の 3 つの視点を意識し、当事者目線で「縁の架け橋」となる実践を進めていく。
 - ① 共に生きる社会のありようを描き、多様なかたちでつながりをつくっていく地域の福祉実践の中間的支援の推進
 - ② 福祉滋賀の実践者である滋賀の福祉人の育成とその社会的価値の創造・定着
 - ③ 社会的に不利な立場にある方々の代弁者として、当事者の“声（Voice）”を社会に発信（現場目線、当事者目線での課題提起と課題解決に向けた福祉実践あり方の提唱）

2. 令和5年度の重点事業

- 1 第三次経営計画の策定
 - ・第二次経営計画の実績評価
 - ・12月を目途に第三次計画案を作成し、理事会において協議
 - ・令和6年3月理事会に議案として上程
- 2 生活困窮、社会的孤立等、困難を抱える人々への希望の架け橋づくり
 - ・生活福祉資金特例貸付利用者（世帯）への当事者目線での支援体制の構築と、相談支援の実施
 - ・生活福祉資金特例貸付利用者（世帯）の生活課題と支援に関する実践研究
 - ・支援者が現場目線で学び交流する場「（仮称）縁つむぎ会議」の運営
- 3 （仮称）ともに生きたボランティアセンター「レイカディア・グッジョブ！カンパニー」の10月開設
 - ・「はたらく・生きがい・地域貢献」のグッジョブ・ニーズ調査
 - ・S L E C（エスレック）講座開催
- 4 滋賀ならではの地域養護の推進と子ども・若者の希望の架け橋づくり
 - ・つながり若者センターマザーボード、つながり若者センターコージータウンの運営
 - ・遊べる学べる淡海子ども食堂の推進
 - ・子どもの笑顔はぐくみプロジェクトの推進
- 5 滋賀の福祉人のすそ野の拡大と福祉滋賀のリーダー育成
 - ・分野共通の「滋賀の福祉人」研修実施
 - ・えにしアカデミーの運営
 - ・「ふく楽 Café」を通じた滋賀の福祉人のつながりづくり
 - ・「滋賀の福祉人」研修の充実に向けた検討
- 6 COZY TOWNの場を生かした“ごっちゃ事業”の実施による縁の架け橋づくり
 - ・多様な人が交流するコージータウンカフェの運営
 - ・生活福祉資金相談＋介護・福祉の仕事相談等＋カフェ等、事業の連携・複合による“憩いと相談の場”の推進
 - ・他法人、団体との協働によるバリアフリー企画、多世代交流企画等、“ごっちゃ企画”の推進
- 7 「ひたすらなるつながり」の具体化に取り組む職員の育成
 - ・「発信力」「共感力」「協働力」「つなぐ力」「現場力」を身につけるための計画的な職員研修の実施

3. 事業計画

1 総務

法人理念の実現のため、財務および人的基盤の強化を図り、第二次経営計画の取組状況を踏まえ次期計画の策定を進める。

- 1 法人基盤の強化
 - (1) 第三次経営計画の策定
 - (2) コンプライアンスの徹底と事務事業執行におけるチーム力の強化
- 2 県立長寿社会福祉センターの管理運営
- 3 「ひたすらなるつながり」の具体化に取組む職員の育成・職員研修の実施

令和5年度 滋賀県社会福祉協議会職員研修実施計画

現場目線・当事者目線を養うため新たに施設現場研修を加え、以下の研修を実施する。

新施設現場研修（社会福祉施設で現場を学ぶ）
新任職員研修、会計研修、係長研修、ハラスメント研修
会長会研修（コミュニティワーク研修、接遇研修）
福祉人研修、えにしアカデミー聴講
全社協研修（新任、中堅、管理職、会計）
その他外部研修

- 4 民間福祉事業・活動の振興
 - (1) 県社会福祉協議会会長表彰
 - (2) 滋賀県善意銀行、各種基金の運営
 - (3) 滋賀県社会福祉施設経営者協議会、滋賀県児童成人福祉施設協議会の支援
 - (4) 各種民間助成金の連絡調整
- 5 ひたすらなるつながりの情報発信
 - (1) 季刊ひたすらなるつながりの発行
 - (2) ホームページ、SNS 等による情報発信の充実
- 6 民生委員児童委員委託研修の実施

2 新生活福祉資金特例貸付利用者の生活支援

貸付利用者のニーズに対応するため、現場目線、当事者目線の支援体制を構築し、相談支援を実施する（事業実施期間 令和 5 年度～16 年度）。

- 1 利用者の生活状況に対応した返済の免除、猶予の促進
- 2 利用者の生活課題に対応した相談支援

（貸付利用世帯：約 20,800 世帯、貸付債権総額：24,104,057 千円、1 世帯あたりの平均貸付額：約 1,159 千円）

3 修学・生活福祉資金

資金を必要とされる人に貸し付け、現場目線、当事者目線で相談支援を行う。

- 1 生活福祉資金貸付事業の推進
 - （1）生活困窮者自立支援事業等関係機関との連携による貸付相談と支援
 - （2）「学びの応援相談会」等、困窮世帯等の子どもたちの進学相談
- 2 児童養護施設退所者等自立支援資金貸付事業の実施
- 3 保育士修学資金等貸付事業の実施
- 4 介護福祉士修学資金等貸付事業の実施

4 地域福祉

複合化する生活課題の解決に向けて、実践者同士が分野を超えてつながり合うことで現場目線・当事者目線での気づきにより、新たな取り組みや実践を創出・はぐくむことを目指す。

- 1 第 42 回滋賀県社会福祉学会の開催
- 2 縁創造実践に取り組む福祉人の育成と支援
新（1）支援者が現場目線で学び交流する場「（仮称）縁つむぎ会議」の運営
（2）ひたすらなるつながりフォーラムの開催
（3）生活困窮者自立支援事業従事者研修の実施
（4）生活支援コーディネーター研修の実施

覇3（仮称）ひたすらなるつながり実践研究会の設置

滋賀県社協が目指す「誰もがおめでとうと誕生を祝福され、ありがとうと看取られる人間的共感に根ざした共生社会」のあり方について、現場目線、当事者目線で調査研究および提言を行うことを通して、法人理念である「ひたすらなるつながり」に基づく地域福祉実践の道標を示し、障害の社会モデルなど、福祉滋賀の今日的探究を行う。

- (1) 生活福祉資金特例貸付利用者（世帯）の生活課題と支援に関する実践研究
- (2) 「滋賀の福祉人」研修の充実に向けた検討
- (3) 現場目線、当事者目線の課題に関する実践研究
- 4 社会福祉協議会職員の研修と交流（滋賀県市町社会福祉協議会会長会事務局）
- 5 地域福祉権利擁護事業の推進
- 6 障害者の権利擁護の推進
 - (1) 障害者 110 番の運営
 - (2) 障害者虐待防止に関わる人材育成、啓発
 - (3) 権利擁護支援にかかわる団体との連携協力
- 7 女性のつながりサポート事業
 - (1) 憩いと相談の場づくり
 - (2) 生きづらさを抱える女性の現状把握
- 8 ひきこもり者と家族が孤立しない地域支援体制づくり事業の推進
 - (1) ひきこもり電話相談の実施
 - (2) 県域および保健福祉圏域での家族支援の実施
 - (3) 働く場づくり「はたらく体験」、居場所づくりの推進
 - (4) 支援者交流、地域支援者研修
- 9 子どもを真ん中においた地域づくりを進める「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト」の推進
 - 覇（1）子どもの笑顔のスポンサーから子ども食堂への“ほほえむ力サポート”マッチング事業
 - 覇（2）子ども食堂運営者学びサポート事業
 - (3) みんな集まれ！遊べる学べる淡海子ども食堂フェスタ
 - (4) 子ども食堂つながりネットワーク SHIGA 研修・交流事業
 - (5) 新規立ち上げ子ども食堂の支援と継続支援
 - (6) 特定非営利活動法人全国こども食堂支援センターむすびえとの共働事業

1 0 地域養護の推進

- (1) 地域養護推進協議会との協働による取組み
 - 「つながり若者センター マザーボード」の運営
 - 「つながり若者センター コージータウン」の運営
- (2) ハローわくわく体験事業の推進
- (3) 社会福祉施設を活用した子どもの夜の居場所フリースペースづくり

1 1 災害時における福祉的支援の推進

- (1) 滋賀県災害ボランティアセンターの運営
- (2) 災害時要配慮者支援の推進
 - ①県災害時要配慮者支援ネットワーク会議の開催
 - ②えにしの日取組み推進
 - ③しがDWA Tチーム員養成研修等の開催

1 2 滋賀県ボランティアセンターの運営

- (1) 淡海フィランソロピーネットとの協働事業の推進
- (2) 市町ボランティアセンターとの連携協働
- (3) 教職員介護等体験事業の実施
- (4) 県民や関係団体への福祉教育資機材の貸出

5 レイカディア振興

はたらく・生きがい・地域貢献の3つの要素で人生を豊かにしていけるよう、レイカディア大学や SLEC を充実するとともに、習得した知識・スキル等を生かした地域活動を促進するための仕組みとして、(仮称) ともに生きなんボランティアセンター「レイカディア・グッジョブ! カンパニー」を10月に開設し、活動先のマッチングなどの中間支援を行う。

1 滋賀県レイカディア大学の運営(草津キャンパス/彦根キャンパス)

2 (仮称) ともに生きなんボランティアセンター「レイカディア・グッジョブ! カンパニー」の開設

「レイカディア・グッジョブ!」とは

「レイカディア・グッジョブ!」とは、はたらく・生きがい・地域貢献の3つの要素で自分の人生を豊かにするシニアの新しい生き方をいう。

- (1) 「はたらく・生きがい・地域貢献」のグッジョブ・ニーズ調査
- (2) SLEC (エスレック) 講座開催

- 3 アクティブシニアに関する情報の発信
 - (1) レイカディア通信（シニア世代情報誌）の発行
 - (2) びわこシニアネットの運営及び情報発信
- 4 アクティブシニアの健康と生きがいづくりの推進
 - (1) ねんりんピックびわこ・レイカディア県民大会：25種目開催
 - (2) 全国健康福祉祭・愛媛大会へ滋賀県選手団の派遣
 - (3) 滋賀県レイカディア美術展の開催

6 滋賀県介護・福祉人材センター（くさつセンター／ひこねセンター）

介護・福祉業界の人材の確保および定着に貢献するため、魅力ある事業を多く実施する。

- 1 無料職業紹介事業
 - (1) 求職者と求人事業所とのマッチング
 - (2) 介護・福祉の仕事説明会、セミナー
- 2 「ふく・楽 Café」を通じた出会いとつながり支援
 - (1) 高校生や大学生等を対象としたカフェ
 - (2) 介護・福祉従事者を対象としたカフェ
 - (3) 求職者と求人事業所との出会いのカフェ 等
- 3 多様な人材層の参入、確保
 - (1) カイゴとフクシの就職フェア in しが
 - (2) 介護に関する入門的研修の実施
 - (3) 介護・福祉の職場体験、インターンシップ
 - (4) 潜在有資格者の再就職支援
 - (5) 介護・福祉現場におけるグッジョブ・ニーズの把握
- 4 えにしアカデミー修了者事業所の推奨と定着支援
 - (1) えにしアカデミー修了者事業所の推奨と実践の推進

えにしアカデミーの2年間の課程を修了した職員が在籍する事業所の評価を高めるため事業所の推奨を行うとともに、事業所内および地域での福祉人育成の取組みにかかる経費の一部を助成する。
 - (2) メンター制度等の職場内の支援体制の強化

7 滋賀県社会福祉研修センター

福祉従事者としての専門的な知識、技術の習得はもとより、自身の福祉観を高め、現場目線、当事者目線で日々の現場実践に向かえる福祉人づくりをめざす。

1 「滋賀の福祉人」研修（新任／中堅／チームリーダー／管理職）

県、大津市と本会による三者協定「滋賀の福祉人の育成に関する協定」（平成30年12月7日締結、令和4年3月1日一部改定）に基づき実施するもの。

本県の福祉従事者が「滋賀の福祉人」としてキャリアを形成していくため、従前から実施している滋賀県障害者自立支援協議会や滋賀県保育協議会等による職種ごとの研修に加え、分野、職種を越えた共通研修として実施。

「滋賀の福祉人」とは

「滋賀の福祉人」とは、支援の知識や技術を支える基本となる支援者としての高い倫理観や価値観を有し、それらを土台に据えて主体的に日々の福祉実践を行う人材をいう。

2 介護人材育成研修

- （1）階層別研修（新任／中堅／チームリーダー／管理職）
- （2）介護職員チームリーダー養成研修

3 課題別研修

- （1）対人支援のための記録入門研修（高齢分野／障害分野）
- （2）OJT推進リーダー研修

4 介護支援専門員の法定研修事業

- （1）介護支援専門員実務研修
- （2）介護支援専門員現任・更新・再研修
- （3）主任介護支援専門員研修

5 認知症に関する専門的研修事業

- （1）認知症介護従事者研修
- （2）認知症介護サービス事業開設者研修
- （3）認知症対応型サービス事業管理者研修
- （4）小規模多機能型サービス等計画作成者研修

6 権利擁護に関する研修事業

- （1）権利擁護（身体拘束廃止）推進員養成研修
- （2）身体拘束ゼロセミナー

8 えにしアカデミー

今ある研修の基本体系による学びを基礎にしつつ、滋賀の福祉人が一段の高みを目指して成長していくことを支える新しい学びのかたちとして、令和3年10月開学したえにしアカデミーにおいて、多様で多彩なフェローのもと、幅広い汎用性のある専門性や人間性に満ちた共感力で明日の滋賀の福祉をけん引し、これからの新しい福祉を創っていくリーダーを養成する。

○第1期生卒業 令和5年9月

○第3期生入学 令和5年10月

9 滋賀県福祉用具センター

抱え上げない介護の実践事業所を拡大するための人材養成や事業所推奨を進めるとともに、県北部での展示会や相談会を行うことにより、全県の福祉用具を活用したより良いケアの普及を目指す。

1 抱え上げない介護推進事業の実施

- (1) 抱え上げない介護取組事業所創成研修（入門・実践・定着）
- (2) 体に負担の少ないやさしい介護技術研修
- (3) リフトリーダー養成研修
- (4) 抱え上げない介護推進事業所推奨事業

2 福祉用具を活用したケアの普及

- (1) 福祉用具セミナー・体験会等における情報発信
- (2) センターでの常設展示、見学対応、展示用具の貸出
- (3) ICTを活用したコミュニケーション支援に関する協議会の開催
- (4) ホームページ・SNS・リーフレット等による情報発信

3 福祉用具を活用したより良い暮らしや介護負担軽減のための相談支援

4 福祉用具に関する専門研修の実施

5 COZY TOWNを活用した普及啓発事業の実施

- (1) 子ども、企業等を対象とした高齢者疑似体験の実施
- (2) 福祉用具を活用した在宅介護相談会

6 滋賀県福祉用具センターの運営管理

10 COZY TOWN

コージータウンの場を生かし、福祉の出来事を地域の出来事にしていく「縁（えにし）の架け橋」を具体化し、発信していく。

- 1 アクティブシニアの学びと活動の場の充実～「ともに学ばん、ともに遊ばん、ともに生きなん」の推進
 - （１）滋賀県レイカディア大学彦根キャンパスの運営
 - （２）（仮称）ともに生きなんボランティアセンター「レイカディア・グッジョブ！カンパニー」の10月開設と、S L E C（エスレック）の開催
- 2 生きづらさを抱える若者等の自立支援～子ども・若者を真ん中においた縁の橋掛け
 - （１）つながり若者センター コージータウンの運営
- 3 福祉人材の確保とキャリア支援～仕事を通じた人と人のつながり支援
 - （１）滋賀県介護・福祉人材センターひこねセンターの運営
 - （２）滋賀県社会福祉研修センターによる東近江、湖東、湖北圏域の事業所を対象とした専門研修の開催
- 4 多様な人が交流する居心地よい空間の提供
 - （１）コージータウンカフェの運営とカフェを活用したイベントや交流の場の開催
若者食堂、ふく楽カフェ、福祉用具展示会等
- 5 “ごっちゃ事業”の企画実施
 - （１）生活福祉資金相談＋介護・福祉の仕事相談等＋カフェ等、事業の“横ぐし”による“憩いと相談の場”の推進
 - （２）他法人、団体との協働によるバリアフリー企画、多世代交流企画等、“ごっちゃ企画”の推進

11 滋賀県運営適正化委員会

- 1 運営適正化委員会の運営
- 2 福祉サービスの苦情解決
- 3 地域福祉権利擁護事業の適正な運営の確保

令和5年度コージータウン事業計画

組織目標

1. 法人理念である「ひたすらなるつながり」の見える化を進めます。
2. 駅近(利便性の高さ)、商業施設(来やすさ)、カフェ(居心地のよさ)というコージータウンの持ち味を生かして、福祉の出来事・地域の出来事にしていく「縁(えにし)の架け橋」を具体化し、発信していきます。

1. 基本事業

- (1) アクティブシニアの学びと活動の場の充実～「ともに学ばん、ともに遊ばん、ともに生きなん」の推進
- ① 滋賀県レイカディア大学彦根キャンパス の運営
 - ② (仮称)ともに生きなんボランティアセンター「レイカディア・グッジョブ！カンパニー」の開設とSLEC 講座の開催

- (2) 生きづらさを抱える若者等の自立支援～子ども・若者を真ん中にした縁の橋架け
- ① つながり若者センター コージータウンの運営
 - ・居場所活動(若者食堂、親子サロン等)の実施
 - ・心理や福祉の専門職による子ども・若者支援(社会福祉法人さざなみ学園との協働)
 - ・生きづらさを抱える若者の相談支援の実施

- (3) 福祉人材の確保とキャリア支援～仕事を通じた人と人のつながり支援
- ① 滋賀県介護・福祉人材センターひこねセンター の運営
 - ・介護・福祉分野を専門とした無料職業紹介
 - ・就職フェアの実施
 - ・ふく・楽(らく)Caféの開催
 - ② 滋賀県社会福祉研修センターによる専門研修の開催
 - ・介護支援専門員研修、認知症関連研修の開催

- (4) 多様な人が交流する居心地よい空間の提供
- ・コージータウンカフェの営業
 - ・アクティブシニア、子ども・若者、子育てパパママなど多世代に向けたイベントや交流の場の開催

2. ごっちゃ事業

- (1) 連携・複合事業
- ① 介護・福祉人材センター×社会福祉研修センター
 - ・研修参加者を対象とした「ふく楽 Café」の開催
 - ② 修学・生活資金課×地域福祉課×介護・福祉人材センター
 - ・生活支援資金特例貸付猶予・免除の手続きや教育支援資金等の相談会の開催に合わせて、女性のつながりサポート事業における居場所事業や介護・福祉の仕事相談を実施
 - ③ 福祉用具センター×福祉用具事業者×コージータウン推進課×アル・プラザ彦根
 - ・4階のオープンスペース等を活用した福祉用具の展示、セミナーや定期相談会の開催
 - ・店舗内でのインスタントシニア体験の開催
 - ④ 県社協×子ども食堂×レイカディアえにしの会×スポンサー企業
 - ・子ども食堂フェスタ in コージータウンの開催
 - ⑤ レイカディア振興課×芸術文化活動支援センター(社会福祉法人グロー)
 - ・レイカディア美術展の開催
 - ⑥ レイカディア振興課×ボランティアセンター×レイカディアえにしの会
 - ・(仮称)ともに生きなんボランティアセンター「レイカディア・グッジョブ！カンパニー」の開設

- (2) コージータウン独自事業
- ① コージータウンおよびカフェの広報の強化・充実
 - ② 他課や外部団体等との連携・協働の推進
 - ・バリアフリー映画会(毎月1回)の(社福)グローとの共催
 - ・その他連携・協働事業の企画・調整と実施
 - ③ 連携協働する団体や地域活動団体等への活動場所の貸し出し(貸館事業)
 - ④ アル・プラザ彦根との協働事業の実施
 - ⑤ コージータウンフェスタの開催